



城東図書館 2025年8月22日～9月17日実施

まちのひと むそうたかし(武壮隆志) さんの 紹介本リスト

写真家・株式会社むそう写真事務所 代表取締役

ほとけの乙女 ミャンマーの仏塔・寺院と少女たち

むそう たかし／著 雷鳥社

「太陽の光に照らされた遺跡を背景に祈る少女」のビジョンを見た僕は、写真家としてこの光景を撮影するため、ブッダの教えを守る上座部仏教の聖地ミャンマーを訪れた。

ミャンマー各地のさまざまな仏教建造物と、偶然その場に居合わせた少女たちの祈る姿をおさめた異色の写真集です。

撮影後、軍事クーデターが勃発。さらに2025年3月には、ミャンマー中部で大地震が発生。写真に写る仏塔や寺院、僧院は倒壊しました。

仏塔や寺院を背景に祈るミャンマーの少女たちの姿が、争いへの問題提起や平和とは何かを考えるきっかけになればと願います。

最重度・重複障害児かなこちゃんの暮らし 地域で、普通学級で生きるということ

武壮 隆志／編著 北村 佳那子／編著 明石書店

僕は写真家としてスタートした頃、学童保育所で働いていました。

そこで出会ったかなこちゃんは、特別支援学校ではなく、地域の小学校の普通学級で過ごしていました。

学校生活における彼女の存在自体が、健常児に「障がいとは何か」「どのように接すれば良いのか」を学ぶきっかけになります。

幼少時代から高校生までの記録を追ったドキュメンタリーで、障がい児と共に育つことの魅力を伝える写真文集です。

ちくわのわーさん

岡田 よしたか／さく ブロンズ新社

ちくわが主役で関西弁、シュールな絵と内容にほっこりした気持ちになります。

岡田よしたかのたべもの絵本シリーズの記念すべき第1作目、第3回プロ絵本大賞を受賞。

岡田さんは、絵本作家として活動する前は福祉や保育関係のお仕事をされていて、お互いの職場が近いこともあり、当時は岡田さんのことを人生の先輩として慕っていました。

その後、絵本作家、写真家とそれぞれの道を目指しますが、岡田さんから、マイペースに自分の好きなことを続けるということを学びました。

アジアン・ジャパニーズ

小林 紀晴／著 情報センター出版局

勤めていた新聞社のカメラマンを辞め、バックパックを背負ってアジアを旅する著者が、同じアジアをさすらう日本の若者たちと向き合ったドキュメンタリーです。

彼らは何を思い、何を求めているのか。この〈日本〉というシステムを離れ、アジアをさまよう若者たち。脱出なのか、逃亡なのか、闘いなのか、23歳で旅に出た著者が、27歳の時に自己検証しています。

この作品と出会ったのは、僕が写真家を志した頃で、作品に刺激を受け、カメラとフィルムをバッグに詰めてアジアへ旅に出ました。そのきっかけを与えてくれた作品です。

アラスカ光と風

星野 道夫／著 福音館書店

18 歳の時にアラスカの写真集に掲載されていた小村・シシュマレフの空撮写真が、すべての始まりだった。

その村の村長に手紙を送り、日本から何回も航空機を乗り継いでシシュマレフに渡航する。現地でホームステイをしながらクジラ漁に同行し、写真を撮ったり、漁などの手伝いをしたりしながら、3 ヶ月間を過ごします。時に恐ろしさすら感じる美しいオーロラ、地球の歴史を感じさせる氷河の海、そしてアラスカに生きる人々の生活。

星野道夫の撮影旅行記であり、記念すべき第 1 作目の作品です。

極北のひかり

松本 紀生／著 クレヴィス

人生を模索していた大学生の頃、故・星野道夫氏の作品に出会い、写真家を志すことを決めた著者は、アラスカを拠点に 1 年の半分（夏と冬）原野でひとり、キャンプをしながら写真を撮る。

「冒険写真家」とも称される著者が、マイナス四十度の世界で見つけたもの。著者初のノンフィクション。

現地でのキャンプの様子が詳細に描かれていて、アウトドア全般に興味のある方も必見です。2014 年情熱大陸に出演。

渋イケメンの世界 美しき働き者たちへの讃歌

三井 昌志／写真・文 雷鳥社

アジアを旅しながら写真を撮り続ける写真家、三井昌志さんの人気シリーズです。

渋イケメンとは、目力が強く、モテることを意識せず、加齢を恐れない男たち。

写真集に登場する被写体たちは、特別な仕事や伝統工芸などではない、ごくありふれた仕事場。働く男は飾らない。飾らないから美しい。汗にまみれ、埃にまみれながら働く男の横顔には、命のかがやきが宿るようです。

日本で最近提唱されているイケメンとは違い、本来の男性が持っている「かっこよさ」を、この写真集から感じとることができます。

ラダックの風息 空の果てで暮らした日々

山本 高樹／文・写真 雷鳥社

インド北部、冬は雪と氷に閉ざされ、昔は外国人が入ることは許されていなかった、3500メートルの世界に残されたチベット文化圏の秘境、ラダック。

日本人でもっともラダックに精通している著述家、写真家である山本高樹の代表作です。

山本さんの旅のスタイルは放浪ではなく、長期滞在。現地での交流の様子を写真を交えてリアルに描かれています。

巻末にはラダックに行きたい人に向けた旅ガイドやラダック語の初歩的会話集も掲載されています。

表示 4.0 国際 (CC BY 4.0)

転載等の際は “大阪市立城東図書館「まちのひと文庫」推薦文”との表記を入れてください

大阪市立城東図書館
大阪市城東区中央 3-5-45 06-6933-0350
<https://www.oml.city.osaka.lg.jp/>